

群 教 セ	E03 - 03
	平17.227集

活動の意欲化・継続化を図る学級活動の工夫

— 学級活動コーナー「花さき山」の活用を通して —

特別研修員 石川 雅規 (板倉町立南小学校)

《研究の概要》

本研究は、学級活動の事後の活動において、計画委員会が中心となって学級活動コーナー「花さき山」を設置し、活用していくことを通して、集団目標や個人目標に対する活動の意欲化・継続化を図ることを目指したものである。具体的には、集団・個人目標の実現に向けての活動に対して、「花さき山」を活用して自己評価や相互評価を行い、さらに充実させるにはどうしたらよいか話し合うことによって、活動の意欲化・継続化を図った。

キーワード 【小学校 特別活動 学級活動 自己評価 相互評価】

I 主題設定の理由

子どもたちは誰でも、自分の力を信じ、いろいろな面でもっとよくなるという願いをもっている。その欲求に教師が気づき、その欲求を満たす支援をすれば、子どもたちは自分のよさや可能性を発揮し、自己を生かせると考える。そのことを念頭に置いて今までの自分の取組を振り返ると、問題点が生じて、子どもに気付かせ、解決させる時間を十分に確保できず、教師が中心となって解決してしまうことが多かった。そのため、子どもたちは「自分たちで解決しよう」という意欲をなくし、何でも他から指示されないと動けない「指示待ち人間」になってしまう傾向にあったのではないかと考える。

また、学級活動で充実した話し合いができ、具体的な集団目標や個人目標が設定できると、児童も教師自身も安心してしまい、時間が経つとそれが形だけのものになり、実践に結び付かなくなるということが度々あった。話し合いの中身自体が、次の活動への意欲付けに乏しかったということも考えられるが、事後の活動が充実していなかったことが一番の原因ではないかと考える。

本学級の児童（4年生 男子9名、女子10名、計19名）は明るく素直で、元気に学校生活を送っている。係活動や当番活動では、言われたことや自分の得意なことには、進んで取り組む。しかし、指示される前に自分で考えて、活動を上げられる児童は少ない。穏やかで気持ちのやさしい児童が多く、雰囲気の良いクラスであるが、それだけにクラスの問題点について真剣に考えている児童は

少なく、教師と児童の間に考え方の相違が見られる。行事のあとや学習の終わりに感想を書かせる、次の活動につながるようなことを書く児童が多いが、書いただけで実践に結びつかないということが度々見られる。

本研究では、児童自らが気づき、考える学級活動を創り出し、決まったことを実行していく態度を育てていきたい。それには、計画委員会の事前の活動、本時の活動、事後の活動の充実が不可欠である。その中でも、話し合いによって決まった集団目標や個人目標を重視し、その実現に向けて意欲的・継続的に努力するという事後の活動が重要であると考え。そこで、学級活動コーナー「花さき山」を設置し、コーナーを充実させていくことで、集団・個人決定した事柄に対する活動の意欲化・継続化が図れると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

学級活動の事後の活動において、計画委員会が中心となり、学級活動コーナー「花さき山」を設置し、活用していけば、集団・個人決定した事柄に対する活動の意欲化・継続化が図れることを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

- 1 学級活動の事後の活動において、計画委員会、話し合いで決まった集団目標や個人目標を学級活動コーナー「花さき山」に掲示していく。その山に、児童一人一人が目標に対して努力し

たことや実践したことを自己評価した花や、友達との頑張りを相互評価した花を掲示することによって、活動の様子が視覚的にとらえられるようになり、目標の実現に向けての活動の意欲化が図れるであろう。

2 学級活動において、「花さき山」を活用したことの良い点や改善点を出し合い、花の咲き具合の少ない内容を取り上げ、どうすれば目標に対してみんなが努力できるか話し合えば、学校生活を再度見直すことができ、目標の実現に向けての活動の継続化が図れるであろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 活動の意欲化・継続化を図るとは

計画委員会の事前の活動や本時の活動を通して、時間をかけて作り上げてきた集団目標や個人目標を学校生活の中で常に意識し、目標の実現に向けて実践を繰り返し、努力を続けていく態度を計画委員会や教師が支援していくことである。

この研究では、計画委員会や教師の支援を「花さき山」を活用して行っていこうと考えた。

(2) 学級活動コーナー「花さき山」とは

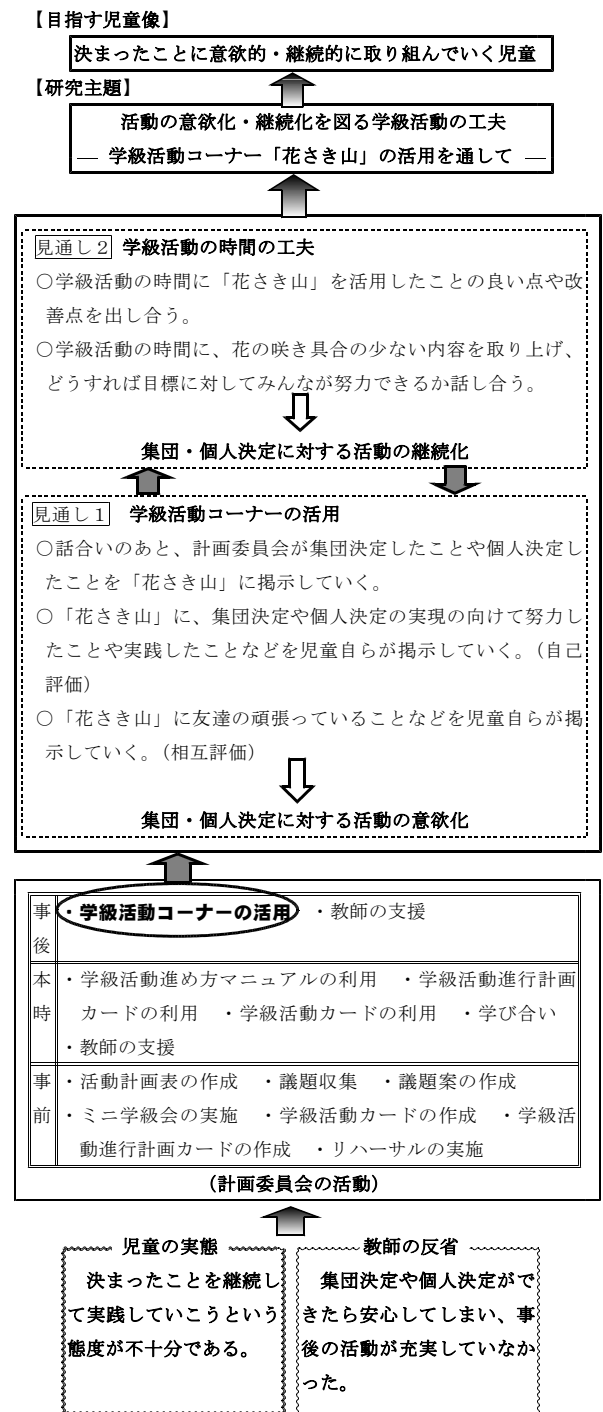
議題や集団目標、個人目標などを掲示していくコーナーである。1つ良いことをすると、1つ花が咲くという「花さき山」の話をヒントに、教室の後ろの壁にコーナーを作り、議題ごとに山を掲示していく。その山のふもとに、集団目標や個人目標を記入し、児童自らが花をつけていく。この「花さき山」は、学級の児童全員が参加する活動が学級活動であるということの意識付けを図り、実践への意欲付けや実践の継続を図ることをねらいとするものである。集団目標や個人目標の実現に向けて努力したことや実践したことを児童自らが掲示し、友達の頑張りのも掲示するなど、自己評価や相互評価を取り入れたものである。自己評価にはピンクの花、相互評価には黄色の花を使用する。また、教師の評価は水色の花を使用する。

(3) 計画委員会の活動

話し合い活動が円滑に進むように、ミニ学級会の開催や学級活動カードの作成、リハーサルの実施など話し合いの事前準備をしたり、話し合い当日の議長団を務めたり、事後の活動を考えたりする委員会である。本学級は19名なので、1グループ3～

4名の5グループを作り、輪番で学級の児童全員が計画委員会を担当する。

(4) 全体構想図



2 実践の概要及び結果と考察

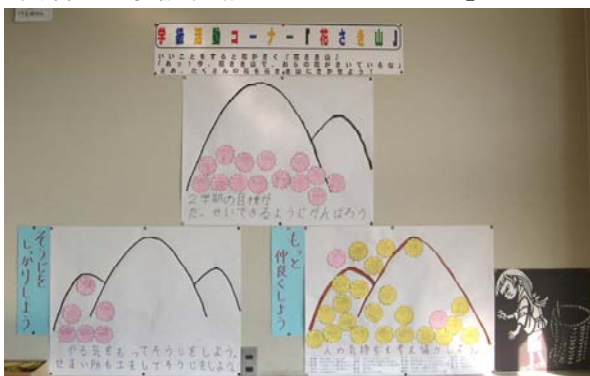
(1) 話し合いで決まった集団目標や個人目標の実現に向けて活動の意欲化が図れたか(見通し1)。

ア 実践の概要

計画委員会が、学級活動において決まった集団目標や個人目標を学級活動コーナー「花さき山」(資料1)に掲示した。今までに「そうじをしつ

かりやろう」「もっと仲良くなろう」「授業中の態度をしっかりしよう」「家庭学習に進んで取り組もう」という議題で話し合いを行い、集団目標や個人目標を決定してきたので、その議題ごとに「花さき山」を掲示した。児童は、それぞれの集団目標や個人目標に対して努力したり、実践したりしたことをピンク色の花に書き、該当する山に掲示した（自己評価）。また、友達が目標に対して頑張っていることを黄色の花に書き、該当する山に掲示した（相互評価）。教師も児童の頑張りを見取り、水色の花にその頑張りを記入し、山に掲示していった。計画委員会や教師は、朝の会や帰りの会を利用して、花の数や書かれている内容について紹介し、活動の意欲化を図った。

資料1 学級活動コーナー「花さき山」



議題「家庭学習に進んで取り組もう」では、家庭学習の問題点について話し合い、アンケート調査の結果などから、家庭学習を30分以上行っている児童が多いものの、集中して取り組めていないということが浮き彫りになった。そこで、友達の学習の仕方を参考にしながら、これからの家庭学習への取組方について考え、個人目標を立てた。さらに、家庭学習に対する個人目標の実現に向けて実践できたことや努力できたことを自己評価したり、相互評価したりして「花さき山」に掲示していった。

イ 結果と考察

議題「家庭学習に進んで取り組もう」の話し合いの中で、「これからは必ず30分勉強する。」「テレビなどを見ないで、集中して勉強する。」「漢字をていねいに書く。」「終わったら必ず家の人に見せ、確かめてもらう。」などの個人目標が出された。

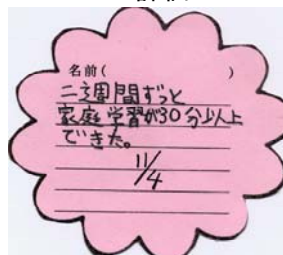
授業の終末では、教師がこの議題についても「花さき山」に掲示していくことを告げ、今後の意欲

的な取組を促した。話し合いが終わった後、計画委員会が本時の反省をし、今後の活動について考えた。その中で、①クラスの課題である「30分以上、しっかり取り組もう」という文字を山の中に入れる。②山を掲示する前に、みんなの前に出て集団目標を確認し、やる気をもたせる。③曜日ごとに担当を決め、帰りの会で、その日の家庭学習への頑張りを促す。などの意見が出て、それを実行した。計画委員会の②、③の活動に対して、他の児童の真剣な眼差しが見られ、その日の家庭学習に意欲的に取り組もうという気持ちが伝わってきた。その後、家庭学習に対する個人目標の実現に向けて実践できたことや努力できたことを自己評価したり、相互評価したりした。

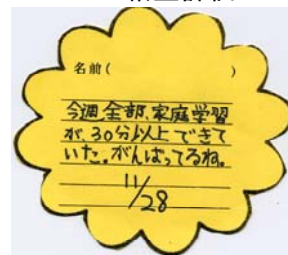
家庭学習の「花さき山」を見ると、掲示された花の数が多く（自己評価16枚、相互評価10枚）、「花さき山」が家庭学習への意欲を高めるのに効果的であったと考える。書かれた内容を見ても、「土曜日、日曜日としっかりできた」「30分以上できた」「家の人にしっかり見せた」など、自分が立てた個人目標を意識した内容が書かれ、「花さき山」の効果が見られたと考える。

抽出児A男は、家庭学習に取り組める日と取り組めない日があり、家の人に学習内容を見せず、印をもらってこない日が多いなど、家庭学習に対しては消極的であった。A男はこの話し合いの中で、「字をていねいに書き、30分以上必ず勉強する。」という個人目標を立てた。その後のA男は、毎日30分以上宿題や音読を行い、家の人印を必ずもらってくるようになった。A男は自分自身の頑張りを自己評価の花に書き、「花さき山」につけていった（資料2）。友達もA男の頑張りを認め、相互評価の花をつけていた（資料3）。

資料2 A男の自己評価



資料3 A男に対する相互評価



以下は、その他の議題についての「花さき山」の集団目標と花の数、実際に掲示された花である。

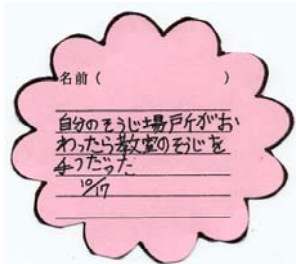
資料4 議題「そうじをしっかりとろう」

集団目標 「やる気をもってそうじに取り組もう」

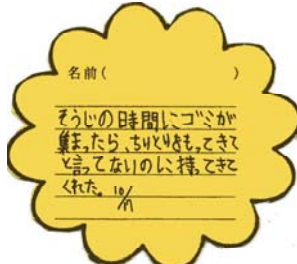
「せまい所も工夫してきれいにしよう」

花の数 自己評価23枚、相互評価12枚、計35枚

自己評価の例



相互評価の例

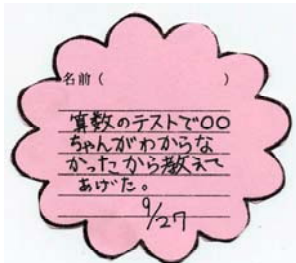


資料5 議題「もっと仲良くなろう」

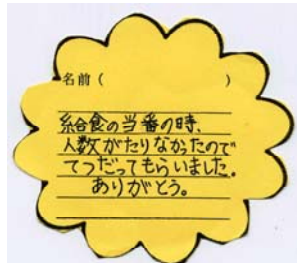
集団目標 「人の気持ちを考え、協力しよう」

花の数 自己評価23枚、相互評価83枚、計106枚

自己評価の例



相互評価の例

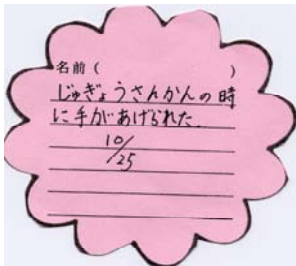


資料6 議題「授業中の態度をしっかりとろう」

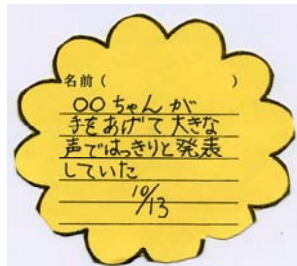
集団目標 「授業に集中し、手わるさやおしゃべりをやめよう」「1日に1回以上、手を挙げ、大きな声で発表しよう」

花の数 自己評価15枚、相互評価16枚、計31枚

自己評価の例



相互評価の例



「花さき山」に花を掲示することで、集団目標や個人目標に対する児童一人一人の取組の様子が視覚的にとらえられるため、「～ちゃんは家庭学習を頑張っているね。」「～君はそうじを頑張っているね。」「自分も～ちゃんのようにやってみよう。」などの反応が休み時間や放課後などに見られた。また、クラス全体として花が増えていく様子が把握できるため、「もっと花を増やそう。」という気持ちが感じられた。

クラスの様子を見ると、そうじ中におしゃべりをする児童は減り、誰かに言われなくても仕事を見つけられるようになってきた。また、友達とのトラブルも少なくなり、みんなで協力していこうという姿勢が学校生活の様々な場面で見られるようになってきた。さらに、授業中になかなか手が挙げられなかった児童も手を挙げるようになり、発表の際の声も大きくなってきた。このような実態から「花さき山」は目標の実現に向けての活動の意欲化を図る上で有効であったと考える。

(2) 話し合いで決まった集団目標や個人目標の実現に向けて活動の継続化が図れたか(見通し2)。

ア 実践の概要

学級活動の時間に、「花さき山にもっと花を咲かせよう」という議題で話し合った。その中で、「花さき山」を活用したことの良い点や問題点を出し合った。さらに、問題点を念頭に置きながら、集団目標や個人目標に対する今後の取組方について話し合った。

イ 結果と考察

「花さき山」を活用したことの良い点として以下のような意見が出された。

— 良い点 —

- ・自分や友達の良いところがたくさん書ける。
- ・友達の良いところや頑張っていることを見つけようという気持ちになる。
- ・友達の良いところを見つけることで、自分が優しい人になれそう。
- ・自分がどのくらい良い事をしたのかが分かりもっと増やそうという気持ちになる。
- ・花を咲かせようという気持ちをもって、クラスの問題が少なくなってきた。
- ・自分の事を書くのは恥ずかしいけど、「花さき山」があれば書ける。
- ・自分や友達の良いところが分かって、もっと頑張ろうという気持ちになる。
- ・書かれた子がその花を見て、もっと頑張ろうと思う。
- ・自分や友達の良いところをみんなに知らせる良い機会になっている。
- ・「花さき山」がないと自分や友達のした事を忘れてしまう。

以上の意見から、児童は、「花さき山」を自分や友達の実践を確認する場であり、クラス全体をより良い方向へ進めていく手だてであり、集団目

標や個人目標の実現に向けての活動の意欲化を図る上で役立つと考えていることが分かった。

次に、「花さき山」を活用しての問題点として以下のような意見が出された。

問題点

- ・先生に言われてから花に書く人が多い。
- ・友達の良いところを見つけても花に書かない人がいる。
- ・字が雑で読みにくい。
- ・「～ちゃんに～を貸してもらった」など、あまり意味がないようなことを花に書く人が多い。
- ・花の多い山と少ない山がある。
- ・集団目標や個人目標を実行していない人がいる。

以上の意見を①自分から進んで花を咲かせていない、②書き方や書く内容に問題がある、③意欲的に取り組んでいる内容とそうでない内容がある、④目標に対して実践できていないものがある、の4つにまとめ、改善策を話し合った。

①の改善策としては、「1日1枚は花がつけられるよう、目標に対して努力する」という意見が出され、了承された。計画委員会が帰りの会で、花を書いたかどうか呼びかけるということも併せて了承された。

②の改善策としては、「花さき山」に掲示するのに適当かどうか考えてから花をつけるなど、本人の自覚にまかせるという意見が出され、了承された。

③の改善策としては、「クラス全員で特に頑張る山（内容）を曜日ごとに決める」という意見が出され、了承された。計画委員会が朝の会で、その日の重点内容をみんなに呼びかけるということも併せて了承された。そして、月曜日は「家庭学習に進んで取り組もう」、火曜日は「給食を残さず食べよう」、水曜日は「授業中の態度をしっかりしよう」、木曜日は「そうじをしっかりしよう」、金曜日は「もっと仲良くなろう」を重点内容にするということも決まった。

④については、実行不可能な個人目標を立てた子がいるのではないかという意見から、個人目標を見直すという改善策が出された。そこで、児童一人一人が学級活動ファイルに綴じてある今までの学級活動カードをめくり、個人目標を見直した。その中で、「嫌いなものでも残さず食べる」とい

う個人目標を立てた児童が、「嫌いなものでも少しずつ頑張って食べる」という目標に変更した。

このような改善策を実行に移していった結果、教師や友達に言われなくても、目標に対して努力し、自分から進んで花をつける児童が増えてきた。また、丁寧な字で読みやすくなり、書かれた内容も具体的で価値のあるものになってきた。また、曜日ごとの重点内容を決めたことで、花の少ない山の目標に対して努力できるようになってきた。そして、実行可能な個人目標に変更したことで、目標に対して努力できる児童が増えた。

以上の結果から、「花さき山」を活用したことの良い点や改善点を出し合い、努力を続けるにはどうすればよいか話し合った「花さき山にもっと花を咲かせよう」という議題の話合いは、集団目標や個人目標の実現に向けての活動の継続化を図る上で有効であったと考える。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

「花さき山」についてアンケート調査を行ったところ、「花さき山」の活用は、自分やクラスにとってとても必要と答えた児童が15名、やや必要と答えた児童が4名、必要でないと答えた児童はいなかった。必要と考える理由として、「自分や友達の良いところがたくさん見つけられる。」「友達の良いところを見つけることで、友達のことが分かり、自分も優しい人になれる。」「花が増えていくにつれて、クラスの問題が少なくなってきた。」「友達や自分がどのくらい良いことをしたのかが分かり、もっと増やそうという気持ちになる。」などが挙げられた。

「花さき山」にピンクの花（自己評価）をつける時の気持ちとして、「自分は良いことをしたなあ。」「自分にもこんなことができたのか。」「明日も頑張ろう。」などが挙げられた。

また、「花さき山」に黄色の花（相互評価）をつける時の気持ちとして、「これからも頑張りたい。」「友達も頑張っているから自分ももっと頑張ろう。」「みんながたくさん良いことのできるクラスにしたい。」などが挙げられた。

さらに、「花さき山」に友達が、自分のことを黄色の花（相互評価）に書いてくれた時の気持ちとして、「自分が気付かないことを書いてくれてありがたい。」「友達は自分のことを見ていてく

れたんだ。もっと頑張ろう。」「もっとみんなの役に立ちたい。」などが挙げられた。

資料7の①②③の児童の感想から、「花さき山」は集団・個人目標の実現に向けての自分や友達の実践を確認できる場になっていると考える。

また、④の感想から、「花さき山」はクラス全体をより良い方向へ進めていくための手だてになると考えている児童がいることが分かる。

また、⑤⑥の感想から、「花さき山」を活用したことで、集団・個人目標の実現に向けての活動の意欲化が図れたと考える。

さらに、⑦⑧の感想の「これからも～したい」という言葉から、「花さき山」を活用したことで、集団・個人目標の実現に向けての活動の継続化が図れたと考える。

資料7 「花さき山」の感想

①	花さき山ができたから友だちのこと自分のことかいはい書けるようになった。
②	いろいろな人のいいところをさがして、いはい書こうと思います。
③	みんなのいい所や、自分のいい所がたくさん見つけれれるから、楽しいです。
④	花さき山がないと、クラスがよくなるから花さき山があったほうがクラスがよくなると思います。
⑤	花さき山ができてから目標票ができるようにになった。
⑥	こんなことができてよかったと思う。自分もみんなにいいことを教わりたいと思う。
⑦	これからもいいことをして、みんなに喜んでもらいたい。
⑧	花さき山ができたからいいことがいはいできるようになった。これからもいいことをしたり見つけたりがんばる。

これらのことから、「花さき山」の活用は、自分や友達の実践を確認することにつながり、クラス全体をより良い方向へ進めていく手だてにもな

り、集団目標や個人目標の実現に向けての活動の意欲化・継続化を図る上で有効であったと考える。

また、本研究に関する事以外の面でも成果が表れた。例えば、「自分にもこんなことができるんだ。」「自分の気付かないことを書いてくれてありがたい。」という意見から、「花さき山」が新たな自己発見に役立ったということが分かる。さらに、友達の良いところを探そうという目が養われ、相手を思いやる気持ちが育っていった。教師自身も、その日にあった児童の良い取組を水色の花に書いて掲示していき、そのことが児童理解につながるなど、学級経営の面からも成果が表れた。このような成果も児童一人一人の活動の意欲化・継続化につながっていったと考える。

2 今後の課題

現在、学級活動コーナーには6つの「花さき山」がある。児童は、集団目標や個人目標の実現に向けて努力し、「花さき山」に花をたくさん咲かせようと頑張っている。今後も話し合い活動を行い、新たな「花さき山」が増えると、目標が多くなりすぎるおそれがあるので、「花さき山」の新たな設置については、児童と共に考えていく必要がある。

また、文章の書き方や書く内容については、学級活動の時間だけでなく、他教科、道徳などと関連づけて指導していく必要がある。

さらに、教師自身の今までの実践の反省から考えて、活動の継続化は大変難しい事なので、新たな手だてを児童と共に考えながら、「花さき山」をさらに充実していきたい。

<参考文献>

- ・文部省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 東洋館出版社（1999）
- ・文部省 『小学校特別活動指導資料 新しい学力観に立つ特別活動の指導の創造』 東洋館出版社（1993）
- ・文部省 『小学校特別活動指導資料 新しい学力観に立つ特別活動の授業の工夫』 東洋館出版社（1995）

（担当指導主事 阿部 泰博）

